

「創造的復興」の理念を活かした ウクライナ支援検討会(第1回)



日時：2023年4月21日（金）14:00～16:00
場所：兵庫県公館 第1会議室

次 第

- 1 開会挨拶（14:00～14:05） 兵庫県知事 齋藤 元彦
- 2 ゲストスピーカーによる講演
 - (1) ウクライナ情勢（14:05～14:45）※逐次通訳
セルギー・コルスンスキー（駐日ウクライナ大使）
 - (2) 国際情勢・「創造的復興」（14:45～15:15）
五百旗頭 真（(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長）
- 3 議事（15:15～16:00）
 - (1) 座長の選任（15:15～15:20）
 - (2) 検討会の概要・スケジュール（15:20～15:25）
 - (3) 提言（骨子）案のイメージ、
カウンタート自治体の候補・検討（15:25～15:30）
 - (4) 今後の進め方等に関する意見交換（15:30～16:00）
- 4 閉会

3(2) 検討会の概要・スケジュール

阪神・淡路大震災からの復旧・復興の過程で生まれた“よりよい社会をつくる”という「創造的復興」の理念を、現在、戦時下にあるウクライナのまちの復興や地域社会の再生などに活かし、兵庫だからこそできる提言等を行うため、有識者等による検討会を設置する。

1 委員・ゲストスピーカー

【委員(9名)】

分野	氏名・団体名	所属
ウクライナ	岡部 芳彦	神戸学院大 教授
	花村カテリーナ	関西看護医療大 助教
創造的復興	越山 健治	関西大 教授
	河田 慈人	県立大 特任助教
こころのケア	加藤 寛	県こころのケアセンター長
	花村カテリーナ (再掲)	関西看護医療大 助教
学校教育	諏訪 清二	県立大 客員教授
支援団体	JICA関西(木村所長)	
	県国際交流協会(早金理事長)	
	人と防災未来センター(河田センター長)	

【ゲストスピーカー(6名)】

回	分野	氏名	所属
第1回	ウクライナ	セルギー・ コルスンスキー	駐日ウクライナ大使
	創造的復興	五百旗頭 真	ひょうご震災記念21C研究機構 理事長
第2回	創造的復興	河田 恵昭	人と防災未来センター長
	こころのケア	神原 咲子	神戸市看護大 教授
第3回	創造的復興 (現場)	伊東 正和	久二塚商業協同組合 理事長
	ウクライナ	ナディヤ・ ゴラル	神戸学院大 客員教授

※今後、芸術文化等、議論の展開を踏まえ、適宜、ゲストスピーカーを追加する可能性あり。

3(2) 検討会の概要・スケジュール

2 検討会のスケジュール（予定）

- ◆ R5.3.22 「創造的復興」の理念を活かしたウクライナ支援検討会の設置
 - ◆ R5年度、全5回開催、年度内に提言を完成
 - ◆ 県民向けシンポジウムを開催（R5.12～R6.1）
 - ◆ 2025年大阪・関西万博において、支援の成果を国内外に発信
- ※ 戦況等により予定変更の可能性あり

回	時期	内容
第1回	4/21（金） 14:00～16:00	ウクライナ情勢
第2回	5～6月	創造的復興の経験と課題
第3回	7～8月	基本方針・骨子案
第4回	11～12月	提言案 中間とりまとめ
シンポジウム	12～1月	提言案 中間とりまとめの報告等
第5回	3月	提言案 完成

3(3) 提言(骨子)案のイメージ、カウンターパート自治体の候補・検討

① 提言(骨子)案のイメージ

【委員・ゲストスピーカー等からの事前意見聴取の結果(主な意見)】

項目	主な意見
検討会の進め方 提言案のイメージ	<ul style="list-style-type: none">◆ うまくアジェンダ設定しないと、阪神・淡路大震災の昔話で終わる。◆ どこ(カウンターパート)に、何を、提言として渡すのか、という事務局案を早めに設定すべき。◆ 阪神・淡路大震災の5年検証等が参考になる。
こころのケア	<ul style="list-style-type: none">◆ 阪神・淡路大震災の経験があり、他国に比べ先進的。◆ 被害者・帰還兵のこころのケアが非常に重要になってくる。
学校教育・防災教育	<ul style="list-style-type: none">◆ 阪神・淡路大震災の経験があり、他国に比べ先進的。◆ 外部からの支援者が全部するのでなく、現地の人材を育成しないと、取組が続かない。◆ 子どものこころのケアも重要。子ども同士の交流もいいのでは。
うまくいかなかったこと	<ul style="list-style-type: none">◆ 「創造的復興」の理念は崇高だが、実は実現できなかったことも多い。◆ まちづくりの合意形成等で失敗した事例を、現場から伝えることは大事。
震災から30年近く経過してわかること	<ul style="list-style-type: none">◆ 災害から約30年間被災経験を検証し続けているのは兵庫県だけ。蓄積を整理した知見があるのは、世界に類がない。◆ 長くモニタリングしてきたからこそ言えることは、価値があるし、兵庫県が伝える意味がある。まさに知識支援である。
友好・交流関係	<ul style="list-style-type: none">◆ 今回の提言だけにとどまらず、長期的なウクライナとの友好・交流を深めていければ。

※この他、芸術・文化(バレエ、音楽)、環境(アスベスト、粉塵、土壌汚染)、障害者のリハビリ・装具、高齢者等見守り対策(LSA等)についても意見あり。

3(3) 提言(骨子)案のイメージ、カウンターパート自治体の候補・検討

① 提言(骨子)案のイメージ

現地のニーズや過去の検証、委員等からの意見を踏まえ、提言まとめる。以下は提言項目の候補。

項目候補 (目次イメージ)		内容
提言策定の意義		なぜ兵庫県が提言をするのか
提言策定の経緯		検討会設置の契機、検討会での議論等の経緯
提言の基本方針		提言のアウトライン、ウクライナ文化の考慮
主要テーマ 候補	創造的復興	「創造的復興」の過程(30年)の検証、評価 (ウクライナに活かせるもの)
	こころのケア	ノウハウ、海外被災地支援の実績、芸術・文化を通じたこころの復興
	学校教育・防災教育	防災教育、海外との交流実績等
その他候補 ※絞り込みを 想定	環境対策	災害廃棄物 (アスベスト等) 処理対策
	まちづくり・地域活性化	まちづくり、中小企業・地場産業・商店街の活性化等支援
	障害者への支援等	災害障害者支援 (リハビリ、装具等)、災害看護
	高齢者等見守り対策	仮設・復興住宅支援 (生活援助員 (LSA) 等)
教訓・事例の紹介		うまくいかなかった事例と評価、現場の声
総括		まとめ、今後の実際の支援の方法

3(3) 提言案のイメージ、カウンターパート自治体の候補・検討

②カウンターパート自治体の候補・検討

【カウンターパート自治体の選定の考え方】

- ◆ 中央政府、駐日大使が推薦できる自治体
- ◆ 戦況が落ち着いている地域（西部等）
- ◆ ところのケア、学校教育等、兵庫県の強みが活かしやすい自治体
- ◆ 山と港町等、環境が兵庫県と似ている自治体

【兵庫県の強みが活かしやすい自治体の例】

- ✓ 従来から教育、文化、福祉に力を入れている自治体
- ✓ 帰還兵等、ここに傷をおった人が多い自治体
- ✓ 経験と教訓の伝承・研究に力を入れようとしている自治体

【カウンターパート自治体の候補】

※岡部教授の推薦自治体

【イヴァーノフランクィウシク州】

【人口】1,349,096人

（出典：ウクライナ国家統計局(2022.1時点)）

【特色】

- 戦災はほとんどないが、愛国心の強い地域で志願兵が多い。帰還兵や親族等のところのケアが必要。
- おそらく、欧米の復興資本もまだ入っていない。

【ザカルパッチャ州】

【人口】1,241,643人（出典：同）

【特色】

- 一番戦況が落ち着いている。
- ハンガリー系。



【ミコライウ州】

【人口】1,091,106人（出典：同）

【特色】

- 侵攻当初こそ激しい戦禍にさらされていたが、今では外相と大使が視察できるほど普通の状況。これからウクライナ復興の中心地のひとつになると見られている。
- 州都ミコライウ市は、港町・造船業の町。
- 知事は朝鮮系。キム知事。交替の多いウクライナの知事の中で長らく知事をつとめており、大統領や中央政府からの信頼が厚い。

⇒今後、情報収集、相手自治体の感触を調査。

（参考）ウクライナと日本の姉妹提携都市

➢ キーウー京都市（1971.9.7～）

➢ オデッサー横浜市（1965.7.1～）

※友好協力に関する覚書締結都市 ドニプロー大阪市（2022.7.15～）